

平成 30 年度長野市地域包括支援センター事業報告（活動報告）

全てのセンターで運営方針に基づいた事業を実施しておりますが、本報告は、運営方針や計画作成の留意点に記述されていないような各センターで工夫された取組、業務の具体的な取組報告等について概要をまとめたものです。

1 地域包括支援センター業務推進体制

〈自己評価の視点〉

- ① 2019 年度（令和元年度）地域包括支援センター「事業計画」が適切に作成されている。
- ② 平成 30 年度地域包括支援センター「事業報告」が適切に作成されている。
- ③ 3 職種連携によるチームアプローチが適切に行われている。
- ④ 職員の資質向上に対する取組を適切に行っている。
- ⑤ 個人情報の取扱い等、情報管理を適切に行っている。

《業務実施事例》

○毎日のミーティングの中で、職員一人一人の課題を共有し、三職種それぞれの視点と立場から助言が得られるように検討と意見交換を行っている。また、毎月職員会議を開いて、ケース検討や業務改善・伝達研修などを行っている。

（ケアポート三輪・安茂里・きたながいけ・ニチイケア高田・星のさと、若槻ホーム・吉田・にしつるが）

○相談情報等をデータ化し、急な相談にも誰でも対応できるようにしている。

（ニチイケア高田）

○包括内の業務改善について、法人で行う提案制度に提案して、随時業務の見直しを行っている。

（若槻ホーム）

○法人内での会議において、包括支援センターの運営状況等を報告するとともに、必要な助言や指示を受けた場合には、日常業務に反映させている。

（富竹の里）

○ICF（国際生活機能分類）の研修を行い、「卒業」や「自立支援」につながるよう意識の共有を図った。

（吉田）

○併設病院内で行われる専門職の研修に参加し、それぞれの職種の知識向上に努めた。

（篠ノ井病院）

○支援困難なケースについては、二人訪問体制で対応している。

（博愛の園、篠ノ井病院）

○24 時間体制での連絡を取れる体制を確保し、夜間休日における緊急対応に備えている。

（安茂里 ほか）

○ケースファイル等を持ち出す際には、個人情報管理表に記入し、管理者が最終確認を行っている。

（きたながいけ）

○年 1 回、個人情報保護に関する研修とテストを実施している。また、介護サービス苦情処理研修に参加し、その内容を職員で共有している。

（ニチイケア高田）

2 総合相談支援業務

〈自己評価の視点〉

- ①地域における多職種協働によるネットワークの構築とその活用を進めている。
- ②高齢者の実態把握を適切に行っている。
- ③認知症高齢者及び家族への支援に取り組んでいる。
- ④初期対応を適切に行い課題を明確化した上で、各業務へつなげている。
- ⑤公正かつ中立な立場で、継続的・専門的相談支援を適切に行っている。

《業務実施事例》

○民生委員との連携・同行訪問等により、地域の高齢者の把握と対応に努めた。

(ケアポート三輪・安茂里・星のさと・吉田)

○民協定例会で毎月地区ケア会議を開催し、民生委員が対応に困っている事例について、話し合う機会を設けている。

(富竹の里)

○地域のサロン等で講師を務め、包括支援センターの役割についてのPRを行い、地域住民との顔の見える関係作りに取り組んでいる。

(安茂里)

○地域の役員会・民生児童委員会・お茶のみサロン・運動講座など、地区の様々な集まりに出向き、地域包括支援センターの役割や総合相談についての説明を行う。

(コスモス、わかほ、若槻ホーム)

○年2～4回センター独自の広報誌を発行し、包括支援センターのPRと認知症、介護予防、権利擁護、地域の情報を掲載して啓発や情報発信をしている。

(きたながいけ、安茂里)

○管内の医療機関にも包括支援センターの活動をPRして、住民が相談しやすい環境をつくっている。

(ニチイケア高田)

○認知症当事者やその家族に、オレンジカフェや本人ミーティングへの参加を呼び掛けた。

(星のさと)

○地区内のお寺の住職に協力をいただき、生活支援コーディネーターやケアマネジャーとの協働により、男性の介護支援者の集いの場(常泉寺カフェ)を設けた。

(星のさと)

○シニア大学と協力して、月1回K sタウンで血圧測定と身体の相談会を実施。

(芹田)

○他県等からの転入転出者に対し、転入前後の保険者や医療機関、支援者と連携協力しながら、円滑な支援に努めた。

(にしつるが)

○地域にある店舗や商工会議所にパンフレットの配布を依頼したり、スーパーや床屋などに来店する客から介護に関する困りごとを聞いたら、包括支援センターに相談するようPRした。

(新町病院)

3 権利擁護業務

〈自己評価の視点〉

- ①権利擁護に関する啓発活動を適切に行っている。
- ②高齢者虐待への対応において、関係機関と連携した通報、支援体制を整え、高齢者虐待事例への対応を適切に行っている。
- ③成年後見制度、社協の日常生活自立支援事業・暮らしのあんしんサービス事業等の活用を促進している。
- ④消費者被害への対応を適切に行っている。
- ⑤高齢者の権利擁護に関して、職員の資質向上に対する取組みを適切に行っている。

《業務実施事例》

- 本人や家族からの相談を受ける中で、成年後見制度や社協の日常生活自立支援事業等の利用が必要と判断した場合、手続きの方法等を説明し、成年後見支援センター等の関係機関へつないでいる。
(きたながいけ ほか)
- ケアマネ連絡会において、虐待事例について検討を行った。
(博愛の園)
- 地域のサロンで、権利擁護について講話を行った。
(安茂里)
- 同一法人グループの老健施設において、身体拘束（高齢者虐待）について研修会を実施した。
(きたながいけ)
- 消費者被害の予防に関する講座を実施した。
(星のさと)
- 介護者教室において、司法書士を講師に成年後見等の講義を行った。
(若槻ホーム)
- 消費者被害等の情報が入った際には、地区内の居宅介護支援事業所にも周知する。
(若槻ホーム・わかほ)
- 認知機能の低下がある利用者のご家族に、成年後見制度の紹介や弁護士訪問相談を利用するなどして、利用者の権利擁護に努めた。
(吉田)

4 包括的・継続的ケアマネジメント業務

〈自己評価の視点〉

- ①地域のケアマネジャーに対する個別支援を適切に行っている。
- ②地域包括ケアに向けての体制作りを適切に行っている。

《業務実施事例》

- 地域内のケアマネジャーと連携するため、同行訪問や検討会開催により情報交換を行っている。
(ケアポート三輪 ほか)
- 管内の介護支援専門員に対して、生活支援課職員を講師に「生活保護」をテーマに研修を開催し、担当職員との顔の見える関係作りに繋げた。
(安茂里)
- 管内の居宅介護支援事業所の管理者と一緒に「平成30年度介護報酬改正」「介護予防ケアマネジメント」について勉強会を行った。
(きたながいけ)
- ケアマネ連絡会を毎月開催するとともに、ケアマネジャーネットワークを組織して、連携が図れるように取り組んでいる。また、近隣の包括と共催し、医療機関とのネットワークを深める研修会を開催している。
(コスモス・吉田)
- 薬局の方にもケアマネ連絡会へ参加いただき、ケアマネと薬局との連携が円滑に行われるよう、情報交換の場を設けた。
(わかほ・きたながいけ・芹田)
- ケアマネ連絡会の中で、社会資源についての情報提供を行った。
(星のさと)
- 長野市在宅医療・介護連携支援センターと連携し、医療と介護の連携について研修を行った。
(吉田)
- 3ヵ月に1回、ケアマネジャーを対象にケース検討会を開催。毎回、提出事例に応じた助言者を多職種から招聘するなど、工夫している。
(にしつるが)
- 管轄内に一人ケアマネ事業所が多いため、一人で困難事例を抱え込まないよう相談しやすい関係づくりに努めた。
(博愛の園)

5 介護予防ケアマネジメント（介護予防・日常生活支援総合事業）

〈自己評価の視点〉

- ①要支援者等の多様なニーズを把握し、適切なアセスメントのもとに、利用者本人が望む生活という意欲に対して働きかけながらケアマネジメントを進めている。

《業務実施事例》

- 長野市版状態像の目安にかかる確認報告書で、非該当者となった人への対応として、目標達成に向けたサービス利用である旨を説明し、同意が得られるよう取り組みを行った。（博愛の園 ほか）
- 住民主体の体操教室を紹介したり、有償ボランティアによる生活支援等のインフォーマルサービスをプランに位置付けることを意識して取り組んでいる。（安茂里）
- 地区のサロンや懇談会において、介護保険ではなく、自主健康管理ができる地域づくりの必要性について説明した。また、センターだよりの中で先進的に取り組んでいる地区の事例紹介を行った。（きたながいけ）
- サービスの必要性について、十分に本人への説明・話し合いを行い、インフォーマルサービスやセルフケア等を紹介するよう取り組んでいる。（きたながいけ）
- 目標を達成した利用者には、事業の卒業を見込み、地域活動や介護予防教室を紹介している。（吉田）
- 地域の自主グループや自費で利用できる運動教室、ジム等の情報を職員間で共有し、サービス卒業後の支援先として提案するなど、自立に向けた支援計画の策定に努めている。（にしつるが）

6 認知症を正しく理解し適切に対応できる環境づくり

〈自己評価の視点〉

市認知症ケアパスの活用 専門的なサポート体制の強化 認知症高齢者(家族)支援体制の強化

《業務実施事例》

- 地域ボランティアによるオレンジカフェの立ち上げを支援し、開催に結び付けた。
(ニチイケア高田 ほか)
- 地域の認知症カフェ等に参加し、ニーズの把握と対応相談を行っている。
(ケアポート三輪・吉田・富竹の里・桜ホーム・松代総合病院)
- 地域のキャラバンメイトと協働して、サポーター養成講座を開催し、軽度認知障害と思われる方がいた場合の対応について、参加者間で話し合う機会を設けた。
(安茂里)
- 地域のボランティア団体を対象に認知症の勉強会を開催し、認知症カフェの担い手に繋げられるよう、育成に取り組んでいる。また、地区で継続的に運営ができるよう支援を行った。(きたながいけ)
- 南部ブロックの認知症地域支援推進員連絡会議へ定期的に参加し、認知症の方やその家族を地域で支える環境の整備や啓発活動を進めている。
(コスモス・篠ノ井病院)
- 個別ケースの対応について、初期集中支援チームや家族の会から助言をいただいている。
(星のさと)
- 小中学校において、認知症サポーター養成講座を9回開催した。
(豊野)
- 若年性認知症対象者に本人ミーティングを紹介して、参加につなげている。
(にしつるが)
- 民生委員や福祉関係事業者等を対象に、高齢者の認知症ドライバーの免許返納について検討した。また、返納した際の困りごとを話し合ったり、地域での生活支援事業の実施に向けて、住民の力による組織作りにも協力した。
(松代総合病院)
- 「認知症の方の自動車運転免許更新について考える」をテーマに、警察署・運転免許センター・認知症家族の会代表・医師から情報提供してもらい、地域で考えるきっかけ作りができた。
(篠ノ井病院)
- 「安心おかえりカルテ」の作成、「かかりつけ医によるもの忘れ相談事業」の利用について、適宜ケアマネジャーや認知症高齢者(家族)等に活用を働き掛けている。
(わかほ ほか)

7 地域ケア会議

〈自己評価の視点〉

個別ケア会議の実施

地域ネットワーク会議の実施

長野市ケア会議への検討

《業務実施事例》

- 地域ケア会議の開催に向けて、地域のネットワーク作りと問題把握に努めている。また、模擬ケア会議への事例提供、アドバイザーとしての参加などにより、今後の地域ケア会議の開催に関して、関係者への理解を求めている。 (ケアポート三輪)
- 支援困難事例について、個別ケア会議を開催し、専門家からの助言を受けたり、多職種からの視点で支援の方向性を検討した。 (安茂里)
- センター内で模擬個別ケア会議を開催し、職員のケア会議におけるスキル向上に努めた。 (わかほ)
- 地域ネットワーク会議を開催し、住自協や地区の事業者、民生委員など地区の福祉関係者のネットワーク形成を図った。 (吉田)
- ケアマネジャーのケース相談から、地域ケア会議開催につなげている。また、包括主催のケース検討会において、地域ケア会議開催の流れと有効性についてケアマネジャーに周知、協力を伝えている。 (にしつるが)
- 専門病院のOTにケア会議への参加を依頼し、助言をいただいている。 (星のさと)
- 今年度、長野市ケア会議へ提案した検討課題はなく、地区で解決している。 (博愛の園)
- 地域課題の抽出までには至らず、長野市ケア会議にはつなげることができなかった。 (複数)

8 地域における生活支援コーディネーターとの連携

〈自己評価の視点〉

- ①生活支援コーディネーター（地域福祉ワーカー）との連携による生活支援・介護予防の活動づくりを行っている。

《業務実施事例》

- 生活支援コーディネーターと連携して、地域に必要なサービス提供について相談している。
(ケアポート三輪)
- 地区の検討会の開催を支援し、地域課題の把握と生活支援体制の構築に向けて協働で取り組んでいる。
(安茂里・博愛の園)
- 地域福祉ワーカーが主催する「介護者のつどい」を一緒に企画した。
(きたながいけ)
- 生活支援コーディネーターやボランティアと協力して、オレンジカフェを立ち上げた。また、地区の検討会と一緒に地域へ出向き、「地域の支え合い」について説明している。
(コスモス)
- 地域福祉懇談会に出席し、生活支援コーディネーター等と連携して、地域のニーズ把握に努めた。
(わかほ・篠ノ井病院)
- 生活支援コーディネーターと共働し、地域にある社会資源をまとめてマップ化して、各家庭に配布した。
(星のさと)
- 生活支援コーディネーターと連携し、地区での体操教室の運営の支援を行った。また、随時参加して、脳トレや体操などのネタを提供している。
(若槻ホーム)
- 生活支援コーディネーターと連携し、地域のインフォーマルサービスや資源の情報提供を受けたり、趣味や特技がある人・ボランティアに意欲がある利用者や関係者を紹介し、地区と協力して活躍してもらっている。
(にしつるが)
- 生活支援体制整備事業の基盤となるようなアンケートの作成に携わったり、地域住民を交えた座談会や地域づくりのための企画会議など、多くの機会でも生活支援コーディネーター等と連携した。
(新町病院)

9 その他

《業務実施事例》

- 地域における自主グループの維持に向けて、利用状況の確認及び支援を行う。 (博愛の園)
- 住民自治協との協力により、介護予防教室やお茶のみサロン等で介護予防の必要性を伝えるとともに、自主グループへの参加を支援している。 (ケアポート三輪)
- 地区別懇談会へ出席し、地域包括ケアシステム構築の必要性を説明した。 (きたながいけ)
- 生活支援コーディネーターや地域包括ケア推進課と協力して、はつらつ体操講座を開催し、自主グループの立ち上げにつなげている。 (コスモス・豊野・桜ホーム・わかほ)
- センター独自のチラシやマグネット・広報誌を作成し、地域住民にPRすることで、より相談しやすい環境づくりに取り組んだ。 (わかほ)
- センターが主体的に関わってきた通いの場を、地域の自主グループに運営を手渡し、継続して開催してもらえるようにした。 (ニチイケア高田)
- 健康寿命大学（6回シリーズ）と称して、継続的な介護予防のための教室を開催した。 (星のさと)
- はつらつクラブの広報を実施。 (芹田)
- 運営推進会議に地区の代表者が集まることに着目し、地区のニーズと施設のニーズを合致させ、自主グループの立ち上げにつなげている。 (にしつるが)
- 併設病院で行っている出前講座を活用して、地区のサロンで紹介したり、グループで予防活動に取り組めるように促している。 (新町病院)